

全国学力・学習状況調査結果と考察

令和4年4月19日に全国の小学校6年生（横浜市約3万人）、中学校3年生（横浜市約2万6千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査の各教科に関する結果と児童生徒の意識に関する結果の概要をお知らせします。

（1）教科学習状況調査結果

○平均正答率

【国語】

	全体	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語の特徴や使い方	我が国の言語文化
藤の木小学校	70	71.6	52.6	74.4	72.2	71.1
全国	65.6	66.2	48.5	66.6	69.0	77.9

【算数】

	全体	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
藤の木小学校	69	75.6	71.4	57.5	72.9
全国	63.2	69.8	64.0	51.3	68.7

【理科】

	全体	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
藤の木小学校	63	47.9	64.7	76.7	60.8
全国	63.3	51.6	60.4	75.0	64.6

○結果から見られる本校児童の学力

	向上してきている力	今後伸ばしていきたい力
国語	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力。 登場人物の相互関係について、描写を基に捉える力。 人物像や物語の全体像を具体的に想像する力。 表現の効果を考える力。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力。 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く力。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 伴って変わる二つの数量の関係性に着目して、未知の数量の求め方と答えを記述できる力。 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し判断できる力。 	<ul style="list-style-type: none"> 示された場面において、数量が変わっても割合は変わらないということが理解できる力。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる力。 提示された情報を複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる力。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる力。 観察で得た結果を問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる力。 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもち、その内容を記述できる力。

(2) 質問紙調査結果

- 自分と違う意見を聞いたり、友達と協力したりして活動することが楽しいと感じている回答は全国を上回った。
- 「国語科の勉強は好きですか」「算数科の勉強は好きですか」といった質問に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答する割合は全国より高い。しかし、「理科の勉強は好きですか」については「どちらかと言えば当てはまる」を含めれば全国より高いものの、「当てはまる」とした回答だけを見ると全国を下回った。
- 「国語の勉強は大事だと思いますか」「算数の勉強は大事だと思いますか」「理科の勉強は大事だと思いますか」という質問について、「当てはまる」と回答する割合は全国を上回った。

(3) 考察

学習については国語も算数も全国平均を上回る結果となった。また、理科については、全国平均とほぼ同等であった。調査の結果から、国語科では、登場人物の行動や気持ち、登場人物の相互関係などについて、叙述や描写に沿って正しく捉えていくといった読む力が伸びているのではないかと考えられる。算数科については、伴って変わる二つの数量の関係性に着目して、未知の数量の求め方と答えを記述できる力や、示された作図の手順を基に図形を構成する要素に着目し、その図形がどのような形であるかを判断できる力が伸びているのではないかと考えられる。理科では、提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる力が伸びていると考えられる。

また、質問紙調査結果から本校には、友達を受容的に認めたり、協力して活動したりすることが好きな児童が多い。

また、勉強が好き、勉強が大事であると感じている児童も多いことから、学習意欲が高く、主体的に学習する力が伸びていることが考えられる。今後も協働的な活動を取り入れながら、児童一人ひとりが主体的に学習に取り組み、学び合っていけるような取り組みをしていきたい。